

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1190800670		
法人名	株式会社 愛誠会		
事業所名	はなまるホーム北越谷		
所在地	埼玉県越谷市弥栄町2-511-1		
自己評価作成日	令和4年11月23日	評価結果市町村受理日	令和5年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和4年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

はなまるホーム北越谷の理念として、『家庭的でゆったりと安らげる環境の実現を図る。自分でやれる喜びのある暮らしの実現を図る。季節感のある実現を図る。』を基本理念としております。住み慣れた地域で家庭的で穏やかな生活ができるように、本人の意思を尊重しております。また、ご自身で出来る事、入浴前にはご自分で衣服の用意をして頂いたり、洗濯物を畳み、しまう等ご自身で出来る些細な事を行って頂くように支援しております。施設内には小さな家庭菜園があり、簡単な野菜を育てています。一番の楽しみでもある収穫から育てた野菜の調理等、入居者様は大変喜んでおります。また、季節の行事を積極的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- ・入居者にいきいきとした生活を送っていただけるよう「入居者本位のケア」を最優先に、入居者が自分でやれる喜びのある暮らしの実現に向けた取り組みがなされている。また、オーナーの協力を得て家庭菜園を充実させ、入居者にも参加いただき、その様子を「はなまる通信」を利用し家族とのコミュニケーションの深化にも繋がられている。更に、入居者との話し合いも日常的に行われ、生活時間や食量などはそれぞれ個人に合わせて対応されている。
- ・運営推進会議については、一度集合形式で開催され、管理者が変わったことでのあいさつを交わり、「面会をしたい」、「日々の様子が知りたい」など参加者からの意見が出され、対応するよう努められている。
- ・目標達成計画については、災害対策でのオーナーはじめ地域との協力体制を作ることを取り上げたが、コロナ禍でもあり、不十分であったが、今後も継続して取り組むこととされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	事務所に掲示しコロナ禍でなければ送り時唱和を行っている、また頭に入れておくように入職時のオリエンテーションで説明を行っている。	入居者と職員が家族のように寛いだ雰囲気の中で、一緒に生活を楽しまれることを大切にされている。家庭菜園での野菜作りや調理、清掃など毎日の暮らしに達成感や喜びを感じてもらえるよう理念を活かした取り組みがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況の中で行えていない。	コロナ禍で地域との交流がままならない中で、隣接の公園や近くの堤防を散歩しながら公民館に立ち寄り、地域の一員としての日常を感じていただいている。建物のオーナーより地域情報をいただき、今後は地域とのコミュニケーションを深める取り組みも検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	越谷市介護保険課に確認相談の結果、運営推進会議は議事録作成し、包括、自治会長、介護保険課へ議事録作成し郵送を行っている。	運営推進会議は、文書形式により定期的開催し参加者に議事録を発送されている。新旧管理者とオーナー、家族が参加して集合会議を行い、家族からは「なかなか会えないので日々の様子が知りたい」などの意見要望が出され、「はなまる通信」を利用するなどして応えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍もあり行えていない。	市担当者とはメールを中心にコロナワクチンや給付金の情報をいただくなど、日常的に連携が図られている。また、事業所の情報は運営推進会議の議事録を届けることで理解をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を適宜開催し身体拘束しないよう取り組んでいる、玄関の施錠等はセキュリティにおいて行っており身体拘束の意味合いとは違う。	身体拘束適正化委員会を定期的開催し、議事録も作成され、それらをもとにミーティングや研修での意思統一が図られている。「声掛けケアの徹底」と言葉使いへの配慮を重点に取り組まれ、拘束に頼らないケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社の資料による研修や適宜会議の場などで伝え防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	こちらから成年後見人のお話を利用者様にする機会がない、またそのような関係者と今の接続点がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をかけて丁寧に説明行っており不明な点が無いよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ご家族様から出たご意見は適宜職員に伝え改善を促したり各フロア会議の場で議題にあげ運営に反映させている。	「外に行きたい」、「〇〇が食べたい」などの入居者からの申し出には、散歩に出たり、誕生日祝いのメニューに入れるなど意見を取り入れている。家族からは「日々の暮らしの様子が知りたい」との要望が出され、「はなまる通信」や運営推進会議を通して対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社会的に可能なことやホームの運営方針に沿ったものであれば反映させるように動いている。	入居者の食事形態や様々なイベント開催について職員からは積極的に意見や提案が出されている。新しい管理者と職員とのコミュニケーションも整い、入居者についての情報のキャッチボールが行われ、共有も図られている。	職員からの意見は管理者からも大切にされています。入居者主体の楽しめるイベント企画などの意見・提案を職員から更に出していただき、事業所運営に取り入れられることに期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境になるように職員からの要望は出来る限り早急に対応するようにしている。上期下期の評価も本社に適正に上げている。給与水準は私が上げられるものではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修には参加して頂くようにしているが研修自体コロナ渦もあり中止が多いのが現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のコロナ渦の情勢においてそのような機会は特にありません。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多く対話を重ね信頼関係を利用者様、利用者ご家族様に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にお尋ねしサービスに反映するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様にお困りごとや、どのような生活を送って欲しいか必ず聴き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	適宜利用者様と雑談をしたりし良好な関係性を作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦で面会等に制限がある状態が開所後すぐに始まった為、すべてのご家族様に職員との関係性を作ることがなかなか進んでいない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人に会うことが、コロナ渦の中では難しく行えていない。	昔馴染みの知人、友人との面会も感染対策を行いながら対応され、外との関係が途切れないよう努められている。思い出の歌を皆で歌ったり、家庭菜園で懐かしい野菜を収穫し味わうなど、職員も様々な工夫を凝らして入居者に楽しんでいただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のことを把握しながら利用者様同士の橋渡しを行い関わり合いが行えるよう行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば適宜対応行ったりしているがこちら側から連絡するのは相手方様のことも考えて出来ないことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望をなるべく体現できるように考えているが体現が難しいことも多い。	アセスメントシートを活用して、昔の仕事の話や住んでいた地域の話から一人ひとりの思いを聴き取られている。言葉の少ない入居者には寄り添って、入浴時や夜間に1対1で話しかけ、気持ちを共有するよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人と他の利用者様と雑談の中でお尋ねしたりして把握に努めたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適宜職員と話し合ったり会議の場でカンファレンスを行ったりし職員へ周知活動を行ったりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とお話したり職員からの聴き取り、本人様と会話を行ったりし介護計画の作成を行っている。	入居者がやりたいことが実現できるように具体的な目標設定がなされ、現状に合わせたケアプランが作成されている。モニタリングやカンファレンスも十分に行われ、家族の要望や医師の意見なども盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画更新前や変化がありそうとき職員への聴き取りを行ったり介護記録を確認し計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望、散歩であったりアレが食べたなど柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について何を指しているのかがよくわかりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に訪問医師の説明を行い、訪問医師担当相談員にてご説明を行って頂いている。	協力医の往診時には往診前に職員が相談をしたり、薬剤の担当者が同行するなど、日常的に安心な体制が取られている。かかりつけ医への受診に際して、入居者の状態を記載した記録文書を家族にお渡しし、医師への情報提供が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来られた際は利用者の状況を説明し見て欲しい所や相談をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様を通じて適宜情報の共有を行ったり、病院側が可能であれば退院前のカンファレンスを行ってもらっている。退院時には往診医に情報をお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、重度化した方や看取りの方が発生していないが、契約時看取りについての説明を行っている。	契約時の「看取りの指針」や「緊急時の対応」についての説明に加えて、状態の変化に応じた家族との話し合いが行われている。今後の状況やリスクの説明もされ、家族や医師との話し合いで他施設や他病院への紹介も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練はまだ行っていない会社側からのそういったお話を(研修など)聞いていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所などの説明や避難訓練及び事務所に防災情報を掲示している。	事業所環境から水害を重点に災害対策が行われ、避難訓練でも垂直避難の方法などを中心に実施されている。夜勤などを含め、人員の確保などにも取り組まれ、また、災害時の避難場所や避難経路の確保にも職員が理解できるよう対応されている。	災害の発生は予測が困難であると想定されることから、オーナーさんとの協力や訓練を通して課題を見つけ対策をとるなど、高齢者をお世話する事業所としての対応力をUPされることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様にあった声掛けを行っている又、会議の場で職員にも適宜伝えている。	入居者それぞれに合った話し方や接し方が大切にされ、声の大きさなどにも気を配り、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努められている。朝の起床や服装などの自由も確保され、入居者の選択への意思も大切にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく利用者様に選択して頂けるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	適宜会議の場で伝えているが行わない職員もいる、適宜指導行っていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の体調だったり好みだったりするような服の選択や自身が着たい物を許容できる範囲でおこなって頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の有する能力によって適宜家事等お手伝いをして頂いている。	メニューは皆で考え、できる入居者には調理や洗い物などに参加いただき、楽しみながら食事が行われている。家庭菜園の野菜を取り入れたり、朝パン食を取り入れるなど入居者の要望にも対応され、食べたい物のテイクアウトも活用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少ない方には水分を促したり食が進まない人にも声掛け行いケアを行っている、摂取量の記録も行っている、飲みたい物や食べたい物の要望も伺っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア行って頂いている、夜間は義歯の方は洗浄消毒も行っている、又訪問歯科医師様にアドバイスや計画書頂いてケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハパンに変更しトイレにての排泄を行って頂いたり便秘の方においては適宜排便コントロールを都度実施している。	トイレ排泄を基本に、自分でできる入居者には介助の手も少なくして自力での排泄に努められている。オムツにもできるだけ頼らず、また、失敗された時でも慌てず静かに対応され、安心していただけるよう支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の摂取、医師にも相談し便秘の改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スケジュールは決めているが、本人が拒否した場合など無理に進めず対応している。	自立の入居者には浴室の外から見守りと声掛けを行い、できることはやっておくケアに努められている。個浴で職員と1対1で、入浴中は昔話をしたり、肌がしっとりする入浴剤を使用することで入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい希望がある場合休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時やセット時のダブルチェックやお薬の説明がすぐ見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には歌をお勧めしたり、作業が好きな方には作業を行って頂いたり強制せずに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦での人混みや遠出は控えているが、近隣の散歩や外気浴などは適宜実施している。	外気浴、散歩、家庭菜園の収穫などに出かけられ、駐車場のベンチでお茶を飲んだりされている。また、ドライブに出かけ、短時間でも買い物を楽しむなど、入居者に楽しんでいただけるような工夫を凝らして支援が行われている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の決まりもあり金銭の持ち込みは禁止となっている、又認知症の症状によってはお金によるトラブルの可能性もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にお電話をしてお話してもらったりご家族様が対応できる時に確認し行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気やフロアを明るくし又適宜温度の調整を利用者様の要望によって行っている。	落ち着いた雰囲気のある居心地が作られ、入居者は穏やかな表情で過ごされている。調理の様子が見える生活感、壁の装飾には季節感が施され、また、入居者が廊下の清掃に参加されるなど、清潔感のある居心地の良い共用空間が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士フロアで雑談したり時には居室にておしゃべりを楽しんだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に使い慣れた物等持ってきてもらい、本人の動きを考慮した居室の物の配置を行っている。	家族や愛玩のペットの写真を持ち込まれ、それぞれの生活習慣と安心感のある居室環境が整えられている。居室内では読書をされたり、見たいTV番組やラジオを聴くなど自分のペースで自由に過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自由に動けるような状態になっている。		

(別紙4(2))

事業所名: はなまるホーム北越谷

目標達成計画

作成日: 令和 5年 1月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナ禍なので書面開催が多いが運営推進会議を活かした取り組みをしていく。	運営推進会議を通してご家族様の要望等を取り入れていく。	運営推進会議の書面開催の時でもご家族様の要望や意見を積極的に取り組んでいく。	12ヶ月
2	35	緊急時の自然災害の知識、避難計画が明確化できていない。	災害時に迅速に対応できるように避難計画を掲示し、会議等を利用して定期的に研修等を行う。	避難計画書を各階に掲示し自然災害等についての研修を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。